

空港周辺に緩衝緑地

公園なども計画

公民館事業の一環として、一月十七日、日章地区公民館（藤宗俊雄館長）で市政懇談会が開かれました。市からは小笠原市長、浜田助役、関係課長らが出席。地元からは約三十人が出席して、ジェット機の騒音など地区の抱える問題について意見交換を行いました。

話し合いの内容は・・・

○航空機の騒音調査結果と被害対策の見直し。
 ●五十九年度に県が一年間調査し、去年の三月末に結果を発表した。



ジェット機の騒音問題など空港関係に話題が集中

それによると、騒音対策区域（WECPNLⅡ）かましきの数値が、荷重等価平均感覚騒音レベル七五以上として線引きされていること

く近い場所でも七五にかなり近い数値が出た。また、線引き内では七五を超える数値が出た。その後、運輸省が去年の五月二十二日から連続七日間、八カ所で調査したが、県の数値とあまり変わらなかった。六十年年度にも県が調査しており、その結果がまだ発表されていない。のはつきりしないが、今までの調査では騒音対策の線引きを大きく見直さなければならぬ数値は出ていないので非常に難しいのではないかと思う。

○空港周辺の緩衝緑地計画について説明を。
 ●これは、空港周辺で一番音の高い所（第三種区域）として指定されている滑走路の横五十メートル程度と滑走路の両端については、海側は物部川の堤防まで、田村側は進入灯の端からやや延ばした所までを国が任意買収して、滑走路の横は土盛りをし芝生や低い木を植えて、音が外へ漏れないようにするもので、音の出る場所が飛行場内の低い所であれば非常に効果があると聞いている。また、滑走路の

両端は航空法の関係であまり土盛りができないので、その場所は主に利用するようにして公園やゲートボール場などを造る計画だ。六十年年度から土地買収を始め、施設の完成は大体六十六年ごろになりそうだが、具体的な計画がまとまれば、県が関係者に対し説明会などを聞くようだが、時期や方法についてはまだはつきりしない。

○空港周辺の整備事業の今後の見通しは。
 ●五十八年十二月の開港へ向けて集中的に事業を実施し、現在までに二十数億円投入した。南国市の負担は県の基金の金利で賄うというこでやってきたが、それ以上に事業を実施したので、そのため借入金の償還にかなり金がいる。また、基金は後二年ほどで解散するので、やむを得ないが六十年年度が最後の年になりはしないかと思う。

○し尿処理対策と汚水を含む河川流水対策は。
 ●し尿処理については、広域行政の加入をお願いしている。広域の市街化区域については、土佐山田町から高知市へ向けて下水管が敷設されており、時間はかかるが処理できるようになる。それ以外には今のところ河川の流水についての汚水処理対策は、まだ